教育支援化教材論第5回課題

授業日：5月21日

A20-1409　駒木咲紀

１．自分のeラーニングに必要な評価

私は、毎週更新される形式の場合は、eラーニングでは毎回の授業後に、次回の授業までにレポートの提出を求めることで評価する方法が望ましいのではいないかと考える。前回までに私が考えたeラーニングの定義には「いつでも」というキーワードが含まれている。それにもかかわらず、一週間という比較的短い期限を設定しているのは、毎週授業が行われるという形式のメリットが、教員が学生の理解状況やを知り、それをもとに授業を再構成できることだと考えているからだ。レポート提出の実施は評価をつけるために必要なことだが、それと同時に学生の理解度や学生にとっての難易度を図るためでもあると考える。それを活かすためには次の授業までにレポートやテストを行うことが必要不可欠だと考えた。

また、毎週更新されるわけではなく、すでにアップロードされている動画や資料を期間内に自分で見て学ぶ形式のものは、ある決められた期間までにレポートやテストを行い、提出するという形式が求められると考える。

　中間テストや期末テストに関して、私は行わなくて構わないという結論に至った。なぜなら、私が考えるeラーニングは、いつでもどこでも受講できるというものだが、期末テストを一斉に行うというのは、「いつでも」という部分に反してしまうのではないかと考えたからである。もしどこかに集まってテストを行うのであれば「どこでも」という部分にも反することとなる。

また、私が考えるeラーニングではインターネットを使うことを前提としているが、各家庭環境によって通信状況は違うため、インターネットが不安定でテストの途中で通信が切断されてしまったり、回線が込み合っていて一時的にレポートを送信できなかったりというトラブルが考えられる。このことからも、全員が同時に行うテストは避けるべきであると考える。

レポート提出に関しては、提出期間をある程度の余裕をもって設け、ただ1つのレポートではなく複数にすることによって、一時的に提出できなくても問題が解消してから送信できるようにする。万が一レポートの送信できず、提出ができなかった場合には、期限までにレポート作成が完成していたという証拠があれば期限内に提出できたこととするなどの寛大な処置をする必要がある。1つのレポートではなく、複数にすることで内容を分割することができるため、送信するデータ量を減らすことができ、送信ができないトラブルを減らすことにつながるのではないかと考える。

２．考えていることと類似の事例

私が考えるe-ラーニングに必要な評価方法と類似している事例として、鳥取大学医学部大学院のeラーニングがある。鳥取大学医学部大学院では、決められた分のコンテンツを視聴し、そのうち3コンテンツの課題についてレポートを提出することとなっている。レポートは学期の最後まで随時受け付けており、メールで提出する。

参考文献

「大学e-ラーニング受講・レポート提出方法について」（最終閲覧日：5月27日）

[e-ラーニング (tottori-u.ac.jp)](https://www.med.tottori-u.ac.jp/medicaleducation/files/45326.pdf)

「大学院　e-ラーニング｜鳥取大学医学部　医学教育総合センター」（最終閲覧日：5月27日）

[大学院e-ラーニング（7つの教育コース） | 鳥取大学医学部 医学教育総合センター (tottori-u.ac.jp)](https://www.med.tottori-u.ac.jp/medicaleducation/3889/3890/)